

S&L I
7

仙臺志(伊藤氏公孫和歌)

仙臺領地新和歌

陸奥山

通船

うらぶかたのふりさへよ今もさう
こゝろのちねとみらねのふ

末松山

惟通

11 10

015565

いさみくすきのまねくやうり

宗古を南 實積

ふれい今を説く此のまうとを

ふくそり南を名よふふひて

緒絶揚 為綱

まじりのまうねほりやもひはも

とくえりうこれ今初の外らも

玉造の 經音

あしを今玉造にまうの初を

とくしり初をまうて初ふ

若丸川

有友

六月五日とあるが、まことに若丸川
うらやまやうらやまの波の埋木

玉河

惟永

まじ月と文の形回乃玉河小

とわつたはふるまうとをきく

衣河

光榮

まじ月と文の形回乃玉河小
うらやまやうらやまの波の埋木

衣河

公野

その世よめふら河の舟人
わたりはるる海の舟人

奥海より 通夏

志まふたつとさいはくふたの海や
ゆかるとよるなるもはく

十府浦より 實臨

波あつらふか川流と流るる風の
舟よりのりもよるすま

塩竈浦より 豊忠

舟よりのりもよるすま

たうりふかめいあうぬふくう後

松島

為信

おし海やうしもみ林と月影小
花自わら波のうらむとてかた

夷夏小詩

實岑

波あしうらみの小詩乃て風小
う後とあてこりてきん川のう

松島浦詩

資時

ふのうらしむきあておつうう詩小
いふいせをぬいのよきううん

神波

為久

得いぬぬ病ふふたをいぬ
そそれりつり波いぬすか

武隈松

通誠

歳とせうふりかうてふひのあ

まじき二本はうんすん

予嘗撰封內陳跡勝地共
名尤著者清冷泉為洞鄉
以出題需知欵于公家諸
君各詠一首自筆短冊購
為一帖云

此後... 卷之... 五

正徳龍集壬辰孟夏之日

蘇子瞻一首在道中將台村識

此出題書也於下公海書

或亦嘗書所叙以爲因似

中書蘇桂曰朝初觀也

鹽松八景

塩竈浦松 從二位實蔭

少皇舟乃波のほかてと、かて京

よりやふふれうまふ海

雄鴻統雁 正三位通夏

り房や故よりいづをわすれ
とくまの波まの身と人をして

月見詠有 歳入九少辨光景

多れにわくう程をわたり
月見のうらみの心とさめらん

蕭寺曉澄 棺中納言慈恩

祢うんうふこのむきこまおゆこれ
ありわたりて、さうじりてまきて

蘇清夕照 従三位高久

波のうらみの心入日の影うす

くくゆくみれゆよるそそ

浮海翠松 従一位通議

塩くゆくくくゆくくくゆく

うゆくゆくゆくゆくゆく

海濱漢火 正二位通躬

屋をけるたてたれそやゆく

ちくくゆくゆくゆくゆく

富山書堂 権中納言為綱

葉かたけくくくゆくゆく

くくゆくゆくゆくゆく

惟寬松活技素之名區奧陽
之勝境也人目之所瞻多野
老市臺同而知之往其地在
京甚遠公視公鄉縉紳游
觀高車之撤雖自古有其

欽頗見之京於畫圖和其
勝於傳圖未見旁稱其景
茲記之勝者豈不益恨哉
予思之不措撰為地義京可
稱者八為題請出題于冷泉
英口為網鄉常泳欽于公
俊輩八人各詠一首和欽已
成今在自書寫以藏之于極
和而所殆雖似好景因和欽
以著為勝之實且為後志

珠玩不亦乎乎且為

平時德田甲午年仲春

今令力日種林中亦時藤原朝

新車入心者一音

...

右和訣作者三

通誠

久我

從一位前内大臣

豐忠

廣德

正二位權大納言

經音

大納言

正二位權大納言

通躬

中院

正二位前權大納言

惟通

久我

從二位權中納言

種克

日野

從二位權中納言

為綱

冷泉

從二位權中納言

公長

風早

正三位宰相

有孫

穴條

正三位宰相

實隆

或右為

從二位前宰相

通茂

久世

正三位

為信

藤谷

從三位

實岑

押上

從三位

為久

冷泉

從三位

惟永

竹内

正四位下 彈正 大弼

雅季

清水谷

正四位下 左中將

公野

或果

從四位上 右中將

資時

若菜

從四位下 右兵衛佐

實積

尾早

從四位下 右中將

光榮

若丸

正五位上 藏人 左少辨

已上

018868

